眞鍋かをりさん

あらためて気付いた「ふるさと」の良さ―

リニューアルした広報さいじょうの、最初の特集テーマはシティプロモーション。私たち一人一人がまちの魅力を見直し、発信していくことを目指します。まずは当市出身で、各方面で活躍中の眞鍋かをりさんに、西条の思い出や、今後どのように魅力をアピールしていきたいかをお聞きしました。

“当たり前だと思っていた魅力を
もっと自信を持って、
よその人にも伝えていければ”

―西条で生まれ育った眞鍋さんはどんなお子さんでしたか？

西条の自然の中で、本当にのびのびと育ちました。小学生のときに自転車で八堂山の考古歴史館に行って、縄文時代の道具で火を起こして遊んでました。がんばって自転車で登って、下りるときはスピードが出すぎてすごく怖いんですよ（笑）。

学校帰りに海であさりを取って、それを家でお味噌汁にしたり。あとは加茂川で遊びましたね。両親が少し上流の東宮の方まで連れてってくれると、すごく透明度が高くて。海でもよく泳ぎました。

八堂山へと続く坂道

今、都会で子育てをしていると、近所の公園に行っても小さな滑り台と砂場しかなくて。あらためてすごく贅沢なことだったんだなと思います。

商店街にもよく行きましたし、大屋デパート、亀生堂とか…。桐屋には小さい時から通ってたので、帰省したら必ず行って店のおいちゃん、おばちゃんに挨拶します。

―西条高校に通っていた頃の思い出は？

カラオケによく行ってました（笑）。あと小松のマルブンのパスタがすごく好きで、よく両親と食べに行ってました。最近の「てっぱんナポリタン」は、元々は今はなき「ドリップ」のですよね。高校の時は何度も行ってました。油が多いので、おしぼりで鉄板を傾けて。みんなやってましたよね。私もやりました（笑）。「ドリップ」「ラーメン亭」「ごかく」は、西条高校時代の3大スポットでした。

―東京に長くお住まいですが、西条にはときどき戻られていますか？

はい、子どもが生まれてからも2回ほど帰りました。伊予西条駅前に帰ってきて懐かしく感じるのは、洋菓子の「とらや」。昔あった喫茶店「ブギウギ」も懐かしいです。商店街を歩くとアオイロード（のアーケード）がなくなっているから、ちょっと土地勘が狂って「今どこにいるんだっけ」って思ったり（笑）。

―食に関するお仕事も多数されていますよね。「これ食べたいな」と思う西条のものはありますか？

自分では当たり前だと思ってたものが、実は珍しいものだったりします。西条のスーパーに行くと、新鮮なお魚が信じられない値段で売っているのに驚きます。東京で、たまにタチウオを売っていますが、すごく高いし薄いんですよ。西条で山盛りのタチウオのお刺身が安く売られているのを見た時に「ああ、すごく恵まれてたんだな」って思って。

「てっぱんナポリタン」もまた食べてみたいですね。最近いろいろおしゃれになってますよね。昔から食べてたポン菓子が、すごくおしゃれになっていたり。「ひなのや」のポン菓子は東京にも進出してますよね。昔から知ってたものが東京に出ているのは、すごくうれしいです。

眞鍋さんから読者の皆さんへメッセージを書いてもらいました

―2歳のお子さんを持つ眞鍋さんから見て、西条市の子育て環境はどう思いますか？

西条で子育てをしている友達もけっこういます。のんびり、のびのびと育てていて、ストレスがすごく少なそう。愛媛県は、県民性として女性のストレスが一番少ないと最近知りました。それはすごく思います。

子どもを連れて帰っても、遊ばせるところがたくさんあります。その中で、子育て世代同士が一緒につながれるような場があれば、本当に育てやすい環境だなと思います。

―ふるさとへの本当にいろんな思いをお持ちですが、西条市は今後どうなったらいいと思いますか？

武器は本当にたくさんあると思います。私もこれまでは「西条市の魅力はなんですか」と聞かれても、自分にとっては当たり前なことすぎてうまく説明できませんでした。でも最近になって「アピールできるものが実はこんなにたくさんあったんだ」と気付きました。

どこにでもアクセスしやすいし、瀬戸内海の美しい風景は、ほかにはないものです。西条まつりも、とて

Interview 番外編 子どもと一緒に遊びたい場所

東宮に連れていって、川で遊ばせたいですね。東京の秋川渓谷に行ったときは、東宮みたいな感じでテンションが上がりました。西条を感じられるスポットでした(笑)。海もいいし、挙げだしたらいろいろあります。

Interview 番外編 西条まつりの太鼓のリズム

西条まつりもしばらく行っていないので、行きたいですね。キンモクセイが香ると「はい、きたー！」ってなりますよね(笑)。仕事先に和太鼓とかが置いてあると、だんじりの太鼓のリズムを叩いてしまいます（笑）。

“ふるさとに対する「感謝の気持ち」”

もすばらしいです。そういう魅力をもっと自信を持って、よその人にも伝えていければいいのにと思います。「うちぬき」があるのも「当たり前」という感じでした。今考えるとすごいことだったんだなと思います。水道代がかからず、その水でお風呂も洗濯も全部やって。うちにもうちぬきが湧いてて、夏はスイカとかを入れて冷やしてました（笑）。

住んでいると、なかなか分からないですが「こんなのが、ほかの人からしたら珍しいんだな」っていうのを、みんなで出し合っていけたらいいですね。これから私も、そういう視点を持って西条市のことをアピールできたらなと思います。

西条まつりがもっとフィーチャーされてもいいなと思うんですけどね。みんな情熱がすごいですよね。まつりのＤＶＤを毎年買ったり、学校の机に「まつりまであと３６４日」とか書いたり（笑）。東京に出てきてから、人に言うとびっくりされます。

――お子さんが生まれてから気持ちが変わったところはありますか？

西条に帰ってくると「自分のふるさとだな」っていう気持ちはもちろんありました。子どもが生まれてからは「自分のふるさとを見せたい」「ふるさとの物を食べさせたい」という思いが強く出てきました。ふるさとに対する愛情が、いっそう強まった感じがありますね。

――これから挑戦したいことは？

以前、仕事中心の生活を15年以上送ってきました。子どもが生まれて育児に軸足を置いた生活になると、自分のしたいことよりも「恩返し」や「人に喜んでもらうこと」をしなきゃな、という思いになっています。

ふるさとに対しても「感謝の気持ち」を持っています。今までの仕事では、ふるさとをうまくアピールできず、なかなか恩返しできてない部分がありました。これからは、もっとがんばって「いいよ！」っていうアピールをして、恩返しをしていけたらいいなと思っています。

Kawori Manabe

1980年５月31日生まれ、西条市出身。西条高校、横浜国立大学卒。大学在学中からタレント活動を始める。テレビ・イベント出演、執筆などで幅広く活躍。現在は子育てとタレント活動を両立し充実の日々を送る。

あなたも私も、みんなでまちの魅力を発信しよう

インタビューで、ふるさとへのあふれる思いを語っていただいた眞鍋さん。西条市に暮らす私たちも、**あらためてこのまちの魅力を見直してみませんか。**

まちに誇りや愛着を持ち、「まちを語れる」ようになって、みんなで西条市の魅力をいろいろなところに発信していく。そうすることで、まちのイメージや知名度が向上し、交流したり移り住んだりする人が増えて、さらなる魅力アップにつながっていけば――。

市のシティプロモーションの取り組みでは、西条市が目指すまちの姿を表したキャッチフレーズとブランドメッセージを、新たに市民の皆さんと策定しました（下に紹介）。この言葉には、**「まちを知り、好きになることが新しいあなたと未来の西条市をつくる」というメッセージを込めています。**住む人も、訪れる人も、まちを思う人も。西条への「好き」が何かを始めるきっかけになりますように。

LOVE SAIJO

まちへの愛が未来をつくる

四国・西条　新しい自分に出会えるまち。

こどもが「夢」を見つけ、
おとなが「夢」を語るまち、西条市。

石鎚がもたらす水の恵み。
初めて訪れても、どこか懐かしく、
「おかえり」が聞こえるあたたかな人情。
「やりたい！」と言えば、人のつながりが線から面となり、
背中を押してくれる気風。

いろんな個性と出会えるこのまちで、
自分を「掛け算」してみよう。

さあ、挑戦し、出会おう。新しいあなたに。

まちを思うさまざまなメンバーで創り上げた言葉

前のページで紹介したキャッチフレーズなどは、昨年９月～12月に計６回開催されたワークショップを経て完成しました。

ワークショップには、市民や移住者、Uターン、当市出身の市外在住者など有志16人と市職員が参加。まず「なぜ西条市をＰＲしたいのか」「自分が思う西条のいいところ」「どんな人が仲間として増えたらうれしいか」などを語り合いました。次にまちのファンづくりのための具体的なアイデアを出し合い、最後にキーワードについて議論しました。「私の地区は、外の人に対してとてもウェルカム」「『西条が好き』と意識する人が増えると、それ自体が西条のプロモーションよね」「若者が集える場所をつくりたい」「観光客向けに『西条しかないものツアー』を」など、多様なメンバーの個性が合わさり、たくさんの意見が出ました。キャッチフレーズは完成しましたが、このアイデアやつながりは、今後もまちの財産として生かされていくでしょう。

ワークショップには多様なメンバーが参加

ワークショップに参加して…

小西成美さん
当市出身／Uターン／新居浜市在住

人の温かさと自然の美しさ

自分も西条が好きだと思っていたけど、もっと好きなメンバーがたくさんいて、さらに良くしていきたい、広めていきたいという熱意の強さに刺激を受けました。西条には都会にはない人の温かさがあり、自然や、山から見るまち並みもすごくきれいです。昔からずっといるので分からなかったけど、すごくいいとこだなと感じています。

野口綾太さん
当市出身／Uターン／市内在住

個性豊かなメンバーに出会えた

「西条をどうしていくか」という共通の話題の中、参加者はみんな前向きで、視野が広く、今後まだまだおもしろいことができる余白があると感じました。個人的にも西条を見直せる機会でした。西条は住むにはすごく良いところ。あとはおもしろいこと、楽しいことをどうやってできるか。可能性はすごく広いと思います。

花山 葵さん
当市出身／Uターン／市内在住

若者が帰ってこれる環境を

今、いろんな人が「まちを良くする」ためにいろんなところで活動し、目指す道がだんだんまとまってきている感じがするので、より大きなことができる予感がします。若い子には、ぜひ一度は都会に出て良いものを吸収し、西条に帰って来てくれたらと思います。若い人がこっちで楽しめる工夫や仕組みを整えていけたらいいですね。

白石治子さん
新居浜市出身／Jターン／高知県在住

好きという思いを共有できたら

人の良さ、自然や景色の良さは西条の魅力だと思います。広々とした芝生で遊べ、水遊びもできて、子どもが本当に生き生きとしてて。住んで２年ですけど「ホーム」みたいな気持ちになりました。転勤で西条を離れますが、同じような「好き」という思いを持った人がもっと増えてほしいです。また必ず西条に帰ってきたいです。

あなたも始められる

LOVE SAIJO アクション

「西条のために何かしてみたい」「西条をもっと楽しみたい」と思う人は、まずは地域のことを知ること、好きなことを発信することがスタートです。あなたが楽しいと思えることから、一緒に始めませんか？

西条の応援団「LOVE SAIJOファンクラブ」

市内・市外を問わず、みんなで西条を応援するコミュニティを立ち上げています。メンバーの皆さんと一緒に「LOVE SAIJO」を広げる活動をします。会費は無料。メンバー大募集中です。

https://www.city.saijo.ehime.jp/soshiki/citypromo/lovesaijo-fanclub.html

ロゴをどんどん活用しよう！

ホームページから自由にダウンロードして利用できます。普段使うもの、ポスター、名刺などに。みんなで使って思いをＰＲしましょう！

https://www.city.saijo.ehime.jp/soshiki/citypromo/lovesaijo01.html

公式サイト・SNS

住んでいる人も、仕事や学校のために遠く離れている人も、西条が「好き」な誰もがつながれる場をつくりました。西条の元気を受け取り、発信もできます。

サイト「LOVE SAIJO」

移住、仕事や子育てなど西条での暮らしを市民ライターと発信。

プロモーションFacebook

市外の方にも役立つ西条市の魅力やニュースを発信。

Instagram（インスタグラム）

「#lovesaijo」なスポットなど、西条の魅力を市民参加型で投稿。

市民ライターは５月末まで募集中！
詳しくは▶

市役所などでロビー展実施中！

みんなで探そう、見つけよう、伝えよう。私たちの西条の魅力

シティプロモーションって？　私たちも初めはピンときませんでした。最終目標はUターンや移住により住む人が増えること、西条市に関わるファンを増やすこと。そのためには市民が地域の良さを発見し、西条ＰＲの仲間を増やすことが第一歩だと気付きました。

「未来の西条」へのまちづくりの主役は、市民一人一人。みんなで一緒にやりましょう！

経営戦略部シティプロモーション推進課一同

キャッチフレーズ発表！

３月27日に、キャッチフレーズなどのお披露目イベントを総合福祉センターで開催。集まった皆さんと、新たなまちづくりのスタートを祝いました。